

■山尾庸三 技術官僚。工部省・工学校を創設し“日本の工学の父”。霞が関官庁街の計画者で、訓盲院も開校させた。
やまおようぞう
大塩平八郎乱1837＝ 周防国吉敷郡二島村長浜で、代々藩士繁沢家の庄屋で村役人の山尾忠治郎の末子の三男に生まれる。

順天堂始・・・1843＝ 6歳：この頃、読み書きを習うため、3里離れた小郡の寺子屋に通い、

阿部正弘首座1845＝ 8歳：
孝明天皇・・・1846＝ 9歳：才能を認められて、小郡役所の従者の役に就く。

北斎没・・・1849＝12歳：父の真面目な働きに感謝する繁沢家の奉公として迎え入れられ、出世のきっかけとなる。

父のすすめで徳山の長州藩士から歴史・漢詩・書を学ぼうち、江戸へ出たいと考えるようになり、
ペリー来航・1853＝16歳：

安政大地震・1855＝18歳：
松下村塾・・・1856＝19歳：_ついに決心、初めて長州から外へ出、江戸に行く。江戸の三大道場のひとつ斎藤弥九郎の{練兵館}を訪ね、塾頭つとめる長州藩士桂小五郎(木戸孝允)に気に入られ、人生の転機となる。
{練兵館}で武術を学びながら、他の塾で洋式の兵学を学ぼうち、たまたま父からの学費を届けてくれる役となった大村益次郎からも大きな影響を与えられ、

桜田門外変・1860＝23歳：
遣欧使節・・・1861＝24歳：箱館奉行所の武田斐三郎がロシアの沿海州航海計画を立てたのを知ると、小五郎に頼み、小使いとして{亀田丸}乗せてもらうことに成功。この航海によって、外国へ目を向けるようになったところ、
8月18日政変 1863＝26歳：_高杉晋作らと、吉田松陰の遺骸を小塚原の回向院から現在の松陰神社の地に移す一方、伊藤博文とともに塙忠宝を暗殺した後、長州藩士に取立てられ、井上勝に従って外国への密留学を命じられ、井上馨・伊藤博文・遠藤謹助が加わって、ロンドンへ密航し、その進んだ文明に驚嘆。ユニバーシティ・カレッジに聴講生として入学、5人の世話をしてくれたウィリアムソン教授の分析化学に加え、土木工学も選択、

禁門の変・・・1864＝27歳：英字新聞で、長州藩の外国船砲撃を知って帰国を決めた馨と博文から、論されてロンドンに留まり、
薩摩藩士密航1865＝28歳：薩摩藩がイギリスに送ってきた19人の留学生と会い、森有礼から高く評価される。日本で薩摩藩と長州藩との間でも、同盟を結ぶ計画が進むのと並行するように、薩摩人である彼らとの交流を深めて行く。

薩長同盟・・・1866＝29歳：造船技術を本格的に学びたいと思っていたところ、産業革命発祥の地で、造船業が盛んなグラスゴーのことを教えられ、薩摩留学生たちが、一人1ポンドづつ出し合ってくれた金を持ってグラスゴーへ向かう。昼は、ネピア造船所の見習工をつとめ、夜はアンダーソンズ・カレッジで科学の原理などを学ぶ。ネピア造船所の職人の中に豊唾の人たちがいたことから、“手話”の存在を知ると、仕事の合間を見つけては、イギリスの豊唾学校や盲学校を見学し、日本でも同じような学校を造りたいと考えるようになる。

明治維新・・・1868＝31歳：_新政府の重職に就いた木戸孝允の策で送られてきた藩命により、井上勝とともに帰国。
戊辰戦争終・1869＝32歳：三田尻の長州藩海軍局の教授方助役となり、藩の軍艦を修理するため監督として長崎へ回航などした後、
初の日刊新聞1870＝33歳：_新政府より呼び出しで上京、孝允の企図する旧幕府の横須賀製鉄所の再生に向けて起用されると、まず工部省設置の意見書を提出、実現とともに、その管理者となり、

廃藩置県・・・1871＝34歳：長崎県が所有する製鉄所と造船所を、工部省の管轄にして、長崎造船所と改称。_次に、工学校設置の意見書に続いて、盲啞教育のための学校を創る意見書を提出。工部少輔となり、
学問のすすめ1872＝35歳：鉾山開発を進めるよう意見書を提出するなど、工業振興策を次々と展開し、この年の新橋・横浜間の鉄道開業式には井上勝と参加し、天皇と共に列車に乗り込むなどするが、これらの多くは、外国人技術者の指導によるもので、_日本人だけの手で工事が進められる日が来ることを強く願う。

明治6年政変 1873＝36歳：アンダーソンズ・カレッジの同窓生ヘンリー・ダイヤーを校長に、_工部省の工学寮が開校。
長崎県にある高島炭鉱や東北地方の鉾山にも出かけ、灯台の建設事業にも関わり、グラスゴーのネピア造船所に発注した灯台巡視船(明治丸)その後、日本の海を駆け巡る。

初の民間工場1875＝38歳：東京でイギリス人宣教師によって訓盲院創設を目的とする楽善会が作られ、
三つの反乱・1876＝39歳：入会。工部省内に工部美術学校を設置、すでに工業デザインの考え方があったことが分かる。
西南戦争・・・1877＝40歳：京都に滞在中の孝允が倒れたという報せにかけつけるも、後事を託され、死去。_楽善会の会合で、訓盲院の設置計画書を提出、皇室から手元金と併せて、多くの人々から寄付金が寄せられ、
沖縄県編入・1879＝42歳：(工学寮改め)工部大学校の最初の卒業生の鉄道技術者南清、建築家辰野金吾はじめ、以後、“電気の父”となる藤岡市助など、毎年の卒業生が日本の工業を興すべく、あらゆる分野で活躍して行く。

・・・1880＝43歳：_楽善会訓盲院が開校。工部卿として、新潟県周辺の油田開発を提案し、官営の工場、続いて鉾山の民間への払い下げを決め、以後、利益を求める民間企業として発展して行く。

明治14年政変1881＝44歳：_工部省が新設の農商務省に吸収され、工部卿を辞任し、参事院議員となる。
新体詩抄・・・1882＝45歳：工部大学校の校長ヘンリー・ダイヤーが任期を終えてイギリスに帰国。この時の別れの曲スコットランド民謡が日本の卒業式の曲“蛍の光”。_工学会設立で初代会長となり没するまで在任。楽善会会長となる。

内閣発足・・・1885＝48歳：民間の援助だけで存続危ぶまれていた訓盲院を文部省の管轄にすることを提案し実現。_内閣発足とともに、
宮中顧問並びに法制局長官に任命され、
帝国大学始・1886＝49歳：_馨による中央官庁街計画の責任者になると、新たな官庁集中計画を提案し、現在の霞が関官庁街となる。
国民之友始・1887＝50歳：文部省直轄となっていた訓盲啞院が東京盲啞学校と改称されて以降も、寄付活動など支援を続ける。

帝国憲法発布1889＝52歳：
足尾鉾毒始・1891＝54歳：
日清戦争始・1894＝57歳：
子規句歌革新1898＝61歳：耳が遠くなり、宮中顧問官を辞め、_すべての要職から退き、
ビヲ/国産化・1900＝63歳：
日露戦争終・1905＝68歳：

伊藤博文暗殺1909＝72歳：

明治天皇没・1912＝75歳：

21ヶ条要求・1915＝78歳：共にイギリスで学び、新しい国造りに奔走した井上馨が死去。_日本豊唾協会が設立され、総裁に就任。
民本主義・・・1916＝79歳：_久しぶりに帰郷したのを最後に、
ロシア革命・1917＝80歳：_没した。

インターネット山尾庸三の生涯(山近善幸「長州ファイブ」より)ほか、